



下宅部遺跡発見の森(右)
 出土品 飾り弓(上)



水のめぐみ「下宅部遺跡」

伊藤 友己

市の西北部に位置する「下宅部遺跡」は国内でも有数の低湿地遺跡である。狭山丘陵に遡源する宅部川の流れと丘陵の伏流水により、この地は「やけべ田圃」と呼ばれ豊かな稔を結ばせたが、同時にその湿潤な土壌は縄文から奈良・平安の文化遺産を地下深くに抱き続けてきた。

縄文後期(約三五〇〇年前)を中心とする出土物には、漆塗りの飾り弓や、丸木舟、網代、植物の種実や昆虫遺体等、普通では残ることのない有機遺物が多数含まれている。

中でも漆製品は、製品として美事だけでなく、同時に出土した様々な遺物により、漆の採取から調整、顔料の混和、塗布に至る過程が明らかにされ注目を集めている。

「下宅部遺跡」の中心部分は現在埋没保存(発掘せずに保存)により残さ

れ、体験型の遺跡公園「下宅部遺跡はつけんのもり」として活用されている。二〇〇六年には山内丸山遺跡や、吉野ヶ里遺跡等と共に「日本の歴史公園一〇〇選」に認定された。

公園は市民のボランティア組織「はっけんのもりを育てる会」により維持管理され、昨年はその活動に対し東京都の文化財ウィーク推進委員会により都知事賞が贈られた。

「下宅部遺跡」の主要な遺物は全国の博物館で巡回展示され、学術的にも高く評価されているが、市内では展示施設が無い為に市民に十分に価値が伝えられない恨みがあった。現在武蔵家跡地に建設中の「縄文体験館(仮称)」では、貴重な出土物が展示公開されることになっている。市民の貴重な文化遺産を活用し、後世に残していきたいものである。(S11政経)

目次



出土品 注口土器

水のめぐみ「下宅部遺跡」	伊藤友己	1
会長挨拶	会長 三宅良太	2
活動計画と予算/役員紹介	役員会	2
西北の風「虚脱からの復活」	佐藤清彦	2
インタビュー「光を求める稲門出の異色画家 一色泰久」	中村真弓	3
同好会訪問記 音楽同好会	高橋文子	3
二〇〇七年 創立百二十五周年は		
早稲田大学「第二の建学」の年!	高鷲 近	4~5
おとなりさん 府中校友会	小室修一	5
寄稿「故郷を離れて幾星霜」		
.....大野恵子・井原 徹・市川久美子・福田 晃		6~7
寄稿「南無阿弥陀仏」	堀田秀夫	7
ポストマンくばりある記 萩山町	市川彰彦	8
ショート・SHORT	滝来京子・尾島敏雄・成田豊太	8
事務局から	事務局	8
編集後記	岡田一郎	8

稲門会の更なる発展を期して

会長 三宅 良太

昨年十一月の設立十周年記念総会に於いて山下邦康前会長よりバトンを引き継ぎ、早や一年が経ちました。その間、稲門会の諸活動は幹事、会員皆様の大層なご熱意とご協力により順調に継続できておりますこと誠に同慶の至りであり、感謝申し上げます次第でございます。



さて、現在の世界情勢を見ておりますと、私つらつら思いますに日本国民として今の世に生を得、そして首都東京に、都下東村山市内に居住し、早稲田大学が母校であることに無常の喜びをかみ締めております。と申しますのもこの地は東京とは言え、自然に恵まれ、遠く縄文時代からの遺跡(下宅部遺跡他)、また都内唯一の国宝建造物

(正福寺地藏堂) ありと歴史、文化、民俗などに身近に接することができます。我々の東村山稲門会は現在二百余名の会員で構成されており、市内でも単独の会としては最大の団体であります。また東村山市は中越沖地震の被災地の柏崎市と姉妹都市提携を、アメリカ合衆国ミズーリ州インディペンデンス市とも姉妹都市として提携し、中国蘇州市と友好交流都市提携を結んでおり、市および市民レベルでの交流も進められております。このような背景も生かして、今後は柏崎稲門会との交流を手始めに活動範囲を広げることも如何でしょうか。そしてこの稲門会が末永く継続発展し、会員にとりまして有意義な会でありまますよう、山下前会長も力説されておりました新規会員の勧誘に更なるご協力をお願いする次第です。

東村山稲門会役員

会 長	三宅 良太	(昭36 商)
副会長	風間 和夫	(昭30 法)
	當摩 彰子	(昭48教育)
幹 事	當摩 昭治	(昭43 法)
	小亀 輝雄	(昭34 商)
	(事務局長兼任)	
	赤荻 洋一	(昭40 商)
	芦田 均	(昭42教育)
	小野 智	(昭30政経)
	河野 憲一	(平6 人科)
	高橋 文子	(昭55教育)
	高部 素行	(昭35理工)
	高鷲 近次	(昭35 文)
	土橋 雄次	(昭35理工)
	内藤 慎治	(昭28 商)
	長井 治	(昭29 法)
	中村 眞弓	(昭59 文)
	夏山 一彦	(昭48社学)
	南湖 修久	(昭48 商)
	額田 伊久夫	(昭31理工)
会 計	野田 数	(平9 教育)
	岡田 一郎	(昭40 商)
会計監事	崎山 裕子	(昭52教育)
	滝川 桜子	(昭40 文)
	戸田 志郎	(昭43 法)
相談役	山下 邦康	(昭36教育)
顧問	大西 幸夫	(昭30理工)
	久世 利夫	(昭22政経)

(H19、10現在)

07年度活動計画(案)

当会の基本方針

①会員相互の親睦と研鑽 ②早稲田大学の発展に寄与する ③東村山市の文化向上に寄与するに則り活動する

- 第十二回総会開催(十一月十七日)
- 東村山雑学講座(講演会)の開催
開催日は原則として奇数月の第一土曜日(一般市民に開放)
- 役員会の開催 原則として毎月第一土曜日奇数月は講演会の前に実施
お誕生会の開催 毎月役員会開催日の夕方に当月生まれの会員を招待する。一般会員の参加を歓迎(会員相互の親睦を深める)
- 新年会(一月十二日に開催)花見会(四月)納涼会(七月)の開催
同好会活動活性化と支援および新規同好会の発足促進
- 会報および月刊「ユース」の発行
会報は年一回、十月初旬発行
「ユース」は毎月初旬十二回発行
会員名簿の発行(十月)
- 会員増強運動の展開
早大百二十五周年事業への協力およびその他支援
早大キャンパスツアーの実施(時期未定)
- 大学校友会主催の会議および行事への参加
支部および近隣稲門会との交流促進

07年度予算(案)

収入の部		単位:円
前年からの繰越金	145,000	
年会費	100,000	
組織強化補助金	105,000	
総会時懇親会費	500,000	
新年・花見・納涼会費	500,000	
合計	350,000	
支出の部		単位:円
同好会補助費	100,000	
会場使用費	20,000	
雑学講座費	30,000	
会報・「ユース」制作費	430,000	
誕生会費	50,000	
他会合参加費	50,000	
事務通信費	60,000	
事務用品費	80,000	
その他雑費	100,000	
総会時懇親会等費用	500,000	
新年・花見・納涼会等費用	500,000	
予備費(含次期繰越金)	230,000	
合計	350,000	

西北の風

佐藤 清彦

早稲田には一九四七年昭和二年(春、旧制の第二高等学院)に入学、二年経って新制の文学部二年に移行し、五年に卒業した。敗戦後のゴタゴタ社会がまだ続いていたので、とくに第二早高時代はかなりの加減に過ごしたように思う。戦時中は一応、必勝の信念を胸に生きていたのだから、しばらくは全国民ともども「虚脱」状態。それでも目前の受験勉強だけはなんとかこなし、一転、今度はバイト以外は手当たり次第に本を読んで過ごした。当時の日記がわりの雑記帳が十冊ほど残っているが、だいたい一か月に二十冊は読んでいた。「虚脱」に一言を与えた本としては、やはり「復活」と「罪と罰」が忘れられない。それまで本格的な図書館に

虚脱からの『復活』

出入りした経験がないものだから、天井の高いあの大閲覧室は、荒廃の現実から目をそらせ、別の世界に没頭させるのに効があった。時に夕方、家路につくと、明治通りとの交差点のあたりに、市ヶ谷の東京裁判から果嶋の拘置所に戻るA級戦犯のバスとぶつかった。否応なしに敗戦国の現実に直面するわけだが、やたらに手を振るわけにもいかず、複雑な思いで目送るのみであった。十年ほど前か、長い間、出たことがなかった第二早高のクラス会に出席すると、「おれ、あんなのこと、まったく記憶がないけれども、本当にこのクラスにいたの」と問われ、絶句したことがあった。ともあれ、敗戦をわが身にすりこんだようなあの雑記帳も、そろそろ整理する時期を迎えているようである。

(S27文)

「光を求める稲門出の異色画家」

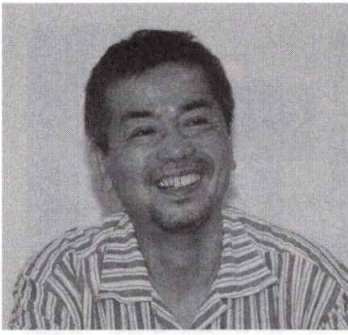
当会員の一色泰久さんに、編集担当の岡田が画家活動の醍醐味などについて伺いました。

●子どもの頃から絵描きになりたいと思っていましたのですね

中学の頃にはほんやりとそういうイメージがありました。高校では早々に絵描きになるという気持ちをはっきりさせました。絵の世界だったら勝負になる、どんな努力でも苦労でもやり抜けると自然に思いました。

●絵の世界をめざしていたのにあえて早稲田の文学部を選ばれたのは

芸大をめざしていましたが、早稲田の入試要項で文学部の美



一色さん

術が目にとまり、おやつと楽しみました。今までは絵を描くだけで、美学や美術史に関して自分に足りない部分があると感じていました。専門家の講義を受けようと早稲田に入りました。感銘を受けた教授も多かったです。ただ技術的には学ぶことがなくてがっかりしました(笑)。絵は太平洋美術学校で勉強しました。

●絵を描いていてよかったと思われたのは

絵描きとして生活が成り立つようなことはなく、大学を卒業してずっと会社勤めしていました。絵から経済的、社会的な地位は求められませんでした。会社で苦情処理セクションの仕事をした折り、同僚は皆体を壊すなど大変な目にあっていましたが、自分は仕事上の顧客と安易な妥協をしなかったのは、絵が真正面から立ち向かうことを長年、習慣付けてくれた為と、仕事が終わると頭の中は絵のことに切り替えられ、意外とのんきだったのかも知れません。絵が現実的な効用、自分の精神バラ

ンスを保つ薬になりました。

●苦勞されたことは何でしょう

サラリーマンになっても絵を描き続けました。活動は個展が中心で、これまでに八〇回ぐらいしています。画商さんにつくこともなくマイペース、自然体で描いてきたので絵がずっと大好きでいられた。絵を描くことで苦勞を感じたことはないです。

●追い求めているテーマ・影響を受けた画家は

「光」を描きたいです。人物とか物、風景というものではないです。光の在り方でしょうか。場合によっては抽象的なものになるかもしれません。スランプに陥った時にボナールの絵を見て衝撃を受けました。彼の作品がその後の自分の世界に大きな影響を与えたと思っています。

●陶芸作家としても活動されていますね

五十六歳で会社を辞め今は絵

画教室と陶芸をしています。陶芸は一〇年ぐらいやっていますが、絵付けと形を造ることの両方ある陶芸は中学の時からいいなと思っていました。誰かのアドバイスがあれば確実にその世界に行っていました。

●高齢社会に思うこと、将来の夢は何でしょうか

絵のことしか考えていないです。四十五、六歳の頃老眼になり、視力の変化に愕然としました。やがてそれが進んで輪郭が見えなくなり、色が見えなくなったら絵描きとしてどうしたらいいだろうかと不安になりました。その時に思ったのは視力が弱くなった時点でそういう絵を描くということです。朦朧としていても深みのある絵を表現できればうれしいです。

●東村山稲門会に望むことは

どなたか絵画サークルをやらないですか。絵については持論が強いので、サークルの運営には不向きと思いますが、またどこか広いスペースで陶芸が出来ればいいなと思っています。時代にあわせて変化発展していきたい、いろいろな意味で東村山の中で市民活動をしていければいいですね。

(まとめ 中村真弓 S59文)

同好会訪問記

CLUB 7

新しく誕生した「音楽同好会」主宰者の高橋文子さん(S55教育)を訪ねました。

「音楽同好会へようこそ！」

毎月1回、日曜の午後、恩多ふれあいセンター集會室からピアノと共に聞かせる若々しい歌声は：：そう、今年5月に産声を上げたばかりの、我が音楽同好会会員の皆さんによるものです。

室内では、2、3人が楽譜を広げられるくらいの長机の上に、岡田さん作成の2冊の歌集や楽譜のプリントが置かれ、皆さん各々の歌い方を楽しんでいるようです。曲の成立過程や曲に由来する話を披露していただき、和やかな談笑の場と化すこともしばしばです。

今のところ「東村山稲門会の歌」で始まり、季節ごとの唱歌や叙情歌が中心ですが、話題の曲にチャレンジしたり、年末に向けて、かの「第九」の16小節をドイツ語で練習する計画もあり、少しずつジャンルが広がっていきます。

その他の同好会

- | | |
|------------------|-------------------------|
| ■旅行同好会 年1回開催 | ●世話人 風間和夫 394-5279 |
| ■麻雀同好会 年4回開催 | ●世話人 小野 智 391-9523 |
| ■カラオケ同好会 毎月1回開催 | ●世話人 内藤 慎 393-5071 |
| ■ウォーキングの会 年10回開催 | ●世話人 高橋正夫 309-3407 |
| ■テニス同好会 毎月1回開催 | ●世話人 當間昭治 391-6023 |
| ■囲碁同好会 年8回開催 | ●世話人 福田 晃 394-0593 |
| ■園芸の会 年6～7回開催 | ●世話人 當摩照夫・彰子 396-3033 |
| ■ゴルフ同好会 年4回+随時開催 | ●世話人 堀田秀夫 090-8339-7179 |
| ■俳句同好会 年6回開催 | ●世話人 高杉風至 391-8447 |

二〇〇七年 創立百二十五周年は

早稲田大学「第二の建学」の年！

創立百二十五周年を迎える二〇〇七年は、早稲田大学にとって「第二の建学」の年――

早稲田の伝統、建学の理念を継承しつつ、それを更に発展させ、地球全体を視野に入れた新しい教育理念に基づいて数々の改革を行い、世界トップクラスの大学をめざしています。その内容のいくつかをご紹介します。

早稲田大学第二世紀宣言

早稲田大学の「三大教旨」（学問の独立・学問の活用・模範国民の造就）を現代に読み替えて、新たな三つの目標を掲げ、これを



大久保キャンパス 理工100周年記念館

「早稲田大学第二世紀宣言」として公表しました。次の三つです。

○ 独創的な先端研究への挑戦 常に時代を先取りし、さまざまな地球的、人類的課題に取り組みために、独創的な先端科学技術創出に挑戦していきます。

○ 全学の生涯学習機関化 大隈重信の意思を継承した生涯学習への取り組みは、すでに一二〇年を超えます。この良き伝統を継承し、大学全体があらゆる「世代」と「社会」に開かれ、多くの人たちが豊かな人生の実現に貢献できる生涯学習機関となることをめざしています。

○ 地球市民の育成 教育においては、共生の哲学を持って地球と人類の未来に貢献することを生きがいとし、深い教養とグローバルな視点でさまざまな課題に挑戦する「地球市民」の育成をめざしています。

学部の新設と再編

○ 国際教養学部 国際教養学部は、二〇〇四年、欧米のリベラルアーツ系大学に見られる教育課程を早稲田独自の視点からとらえ直し、専門分野に特化しない学部として開設さ

れました。地球規模の人類的課題に取り組むことができる人材の育成を目標としています。

世界各地から集まった優秀な教員、多数の留学生たちとの国際コミュニケーションが日常的に行われているのが最大の特色です。母語が日本語の学生は、一年間の海外学習を必修としています。卒業後の活動の場合は、日本の企業のみならず、海外の企業や国際機関など、世界各地に広がります。

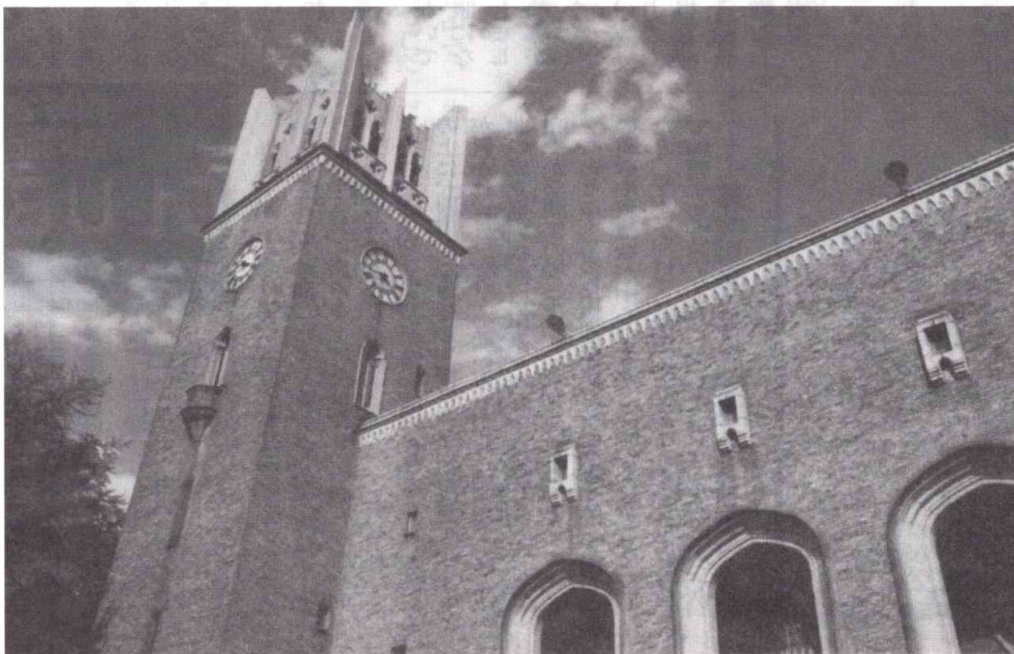
○ 文化構想学部 一一八年という永い歴史を重ねてきた早稲田大学文学部。この歴史が育んだ学問的資産を受け継いで、二〇〇七年四月に「文化構想学部」と、伝統的な学問の系譜を未来へ受け継ぐ新「文学部」とに再編されました。

文化構想学部の基盤となる文学部は、一八九〇年以来的長い歴史を持ち、常に日本の人文科学研究・社会科学研究をリードし、学界、ジャーナリズム、創作や表現活動といった多彩な分野に数多くの人材を輩出してきました。二〇〇七年に新設された文化構想学部は、旧来の枠にとらわれず、文化研究、人文研究を大胆に展開し、新たな「学」の創出をめざす学部です。同時に、夜間特別枠を設け、従来の第二文学部の社会的使命も継承

しています。

○ 基幹理工学部・創造理工学部・先進理工学部 日本の私大理工学部として最古の歴史・伝統を誇る理工学部が、時代の要請に応えるため、二〇〇七年に三つに再編されました。

（基幹理工学部） 私たちが毎日使う自動車や家電製品といった道具・機器が生み出され



大隈講堂改修

ネット ワーク

おとなりさん 7

府中校友会
会長 小室 修一

府中校友会の創立は昭和五二年（一九七七年）六月で、三多摩支部二三の中では七番目の誕生です。初代松本会長、二代目福永会長に次いで私は三代目になります。

三多摩の校友会大会は、当初は連合大会として平成十四年まで行われて来ていたのですが、平成十五年四月一日から東京三多摩支部として新たに発足しました。その記念すべき第一回大会には府中の福永会長（当時）が初代の三多摩支部長、また粕江の宮沢会長が副支部長として府中の大國魂神社結婚式場で、総勢一八六名の会員が参加し盛大に開催され、大学からは新たに「支部旗」

も贈呈されたのです。

府中在住の校友は、約二〇〇〇人程おりますが、会費の納入者は二〇〇〇人しかおらず、会員が増えないという、どちらの稲門会とも同じ悩みを抱えています。幹事と同好会会員同志の交流を積極的にはかり、漸く効果が出てきております。

懇親会企画の一つに屋上での「生ビールで乾杯」があります。フラダンスも披露され、近隣稲門会や一般の人々も加わって楽しく行われております。こうした企画を増やして活性化をしていきたいと会員皆が頑張っておりますので、今後ともよろしく願っています。

る背景には、物質・材料、エネルギー、情報に関する知識・技術の蓄積があり、そうした知識・技術の根底にあるのが数理科学および基礎工学の研究成果といえます。

基幹理工学部では、数理科学および基礎工学に重点を置いた教育、研究を通し、時代の急激な変化に柔軟に対応しながら、未来社会に向けて基幹となる科学技術を担う技術者・研究者の育成を教育の目標としています。

（創造理工学部） 今世紀は人口や環境、資源、エネルギー、食糧などの分野に関連して、広範・緊急な問題が次々と浮かび上がってきています。日本ではこれに加え、少子高齢化や労働人口減少などの問題があり、産業構造および社会構造の激変に直面しようとしています。こうした中、これらの問題を乗り越え

るために、科学技術にはこれまで以上に大きな期待が寄せられています。

創造理工学部は、ヒューマン、生活、環境という三つのキーワードにもとづき、科学技術の観点から、現代社会の数々の問題を解決するための教育・研究を推進し、真の豊かさにあふれた社会の創造をめざしています。

（先進理工学部） 先進理工学部は、自然科学を基礎として、理学・工学・医学分野における先端科学技術の向上と、それらの学際的新領域の創成を目指した先進的な学部です。

すなわち、既存の先鋭的研究・教育に加え、生命医学学科・専攻の新設など、時代に即した効果的な研究・教育を促進し、基礎と応用の相乗的融合を図り、理学・工学・医学の交流を活発にしながら、世界最高水準の研

究・教育拠点として理工系の英知を結集します。

○スポーツ科学部 二〇〇三年、人間科学部の改組に伴い、従来のスポーツ科学科がスポーツ医学学科、スポーツ文化学科の二学科を擁するスポーツ科学部へと生まれ変わりました。スポーツマインドと幅広い科学的素養を併せ持ち、実社会の多彩なフィールドで活躍できる行動力のある人材を育成しています。

充実する施設群

創立百二十五周年記念事業として、大隈講堂、新生学生会館、新「8号館」、理工一〇〇周年記念館（仮称）、西早稲田キャンパスC棟（仮称）が募金対象記念事業として施工されました。

○大隈講堂 早稲田のシンボルとして八〇年にわたって親しまれてきた大隈講堂のリニューアル工事が完成します。外壁を覆う約十九万枚のタイルを、デザインはそのままだに新しく張り替えました。また、耐震化、空調、IT対応化、映像機器など、伝統の内外観を保った最新の仕様を導入しています。バリアフリーにも対応してあります。

○新生学生会館（二〇〇一年完成） 学生の自治的な活動を支援するためのもので、早稲田の学生文化を世界に向けて発信する拠点で、全

館情報化対応となっています。

○新8号館（二〇〇五年完成） 模擬法廷教室の設備など、法学教育環境が更に充実したインテリジェント教育研究棟です。

○大久保キャンパス理工一〇〇周年記念館（仮称）（二〇〇八年完成予定） 理工学部一〇〇周年を前に、理工学部・大学院理工学研究科の教育・研究拠点を拡充すべく建設されています。

○西早稲田キャンパスC棟（仮称）（二〇〇九年完成予定） ネットワーク型授業の拠点として、国内外の大学や研究機関とネットワークで結び、オープンな教育の展開を図ります。

東村山稲門会としても、機会を設けて、新しいキャンパスを見学したいものです。

（資料提供／早稲田大学総長室）
（まとめ／高鷺近 S35文）



西早稲田キャンパスC棟

故郷を離れて幾星霜

遠い昔に故郷を離れ出で、早稲田大学に入学・卒業し、その後に縁あって東村山に住まれた四人の方に「登場いただいたき、今や故郷を「遠き」にありて思うもの」の感慨を伺いました。

街路灯すらない故郷の空は満天の星

大野恵子 愛媛県大洲市出身

昭和四二年、スモッグに霞む高田馬場に降りるところから大学生生活は始まった。

気動車が午前午後それぞれ数本しか止まらない。バスがせいぜい一時間に一本。見渡す限りの山と川そして田圃。街路灯すらなく空には満天の星。それが愛媛県大洲市春賀、我が故郷である。そんな田舎に育った自分にとって東京は憧れの大都会だった。

学バスは一〇円、それすらも惜しんで古いアーケードと古本屋が軒を並べ、都電の走る道を只管歩いた。トイレ・風呂勿論無しの四



昭和40年代の早大南門付近の風景

畳半アパートが六千円。まだ賄付下宿に入る学生も多かった。銭湯二五円、ラーメン四〇円、二〇円の早バツジをさり気無く付けた。学食

のAランチが五五円。そんな中で百円映画、入場券七〇円の早慶戦に熱狂した。年間の授業料八万円を三回の分割で払い、アルバイトに明け暮れ、自炊生活をした。待望の夏休みは一昼夜以上かけて鈍行で帰った。愛媛までの学割往復切符が三九二〇円、宅配便などなく、国鉄のチッキが一八〇円。チッキと聞いて分かる人が今だけいるだろう。両親から送ってきたキャベツがどれもとろけてしまっていたことがある。そつと内側の食べられる所を食べた。「美味しかった」と手紙に書いた。父からの手紙は、便箋の隅が汚れていることがあった。寝る暇とて無い忙しさの中、いつこの手紙を書いてくれたのだろう、と手紙を押し送った。

上京して早や四〇年になる。その時書き始めた出納簿がこれまでに三五冊。めくると、今では嘘のような数字が並んでいる。そして早稲田に学んだ自分、夢にきらきらしていた自分がそこにいる。

親孝行もできないまま、母は去年この世を去り、家を見下ろす山の中腹に父と一緒に眠っている。母の笑顔はもう二度と見る事ができない。

できない。

(S46文)

映画「硫黄島」の主人公は母校の先輩

井原 徹 長野県長野市出身

長野県長野市が故郷です。県立長野高校を卒業して、昭和四二年に早稲田大学第一法学部に入学。早稲田には、学生そして職員として、四二年間お世話になりました。東村山市には昭和五二年に引越して来ました。

最近話題を呼んだ映画「硫黄島」の主人公「栗林忠道中将（終戦直前に大将）」が、長野高校（旧制長野中学）の先輩であることを知り、早速に本も読み、映画も見て勉強しました。栗林中将は、敗戦必至の硫黄島の戦局下で部下と生活レベルを共にし、万歳突撃を禁止した陸軍指揮官です。

長野中学でリベラルアーツを学んだことが、そうした考え方や行動の原点を形成したのではないかとある評論家は語っています。

栗林中将は殺しあう戦争の真只中で、「生命を疎かにするな」と命令した人でした。だからこそ「死に急ぎは許さん」と言ったのだと思います。何と凄くことでしょうか。私は、栗林中将が単に高校の先輩だからではなく、人間として凄く人だなと思ひ、尊敬の念を抱きました。そして、何と栗林中将の次女「たか子さん」は、昭和三年早稲田大学第一文学部仏文専修卒だということです。私にとつては、二重に嬉しいことです。

長野県人は「理屈っぽい、うるさい」と言われます。だからでしょうか、確かに幕末・明治の頃の「薩長土肥」のように、いわゆる政治的な「偉人」は輩出していません。むしろ長野県人は、「気質」としては、トップになるよりも筋や道理を大切にしながら、あるいは学問を活かしながら、「参謀」「ナンバーツー」として生きるタイプが向いているのではないかと思います。私自身もその方が合っていると思っています。それにしても、県歌「信濃の国」（最近ではカラオケにある。）の大合唱は、他県の方が不思議がり、呆れるものではないでしょうか。（S44法）

寝台特急で十八時間の博多から上京

市川久美子 福岡県福岡市出身

期待と不安を胸に、東京駅に降り立ったのは、今から四十数年も前の早春であった。

博多駅から寝台特急で十八時間という長旅の後、文京区茗荷谷の下宿にお世話になった。東京の最初の印象は人が多いこと。初めて新宿に行き、あまりの混雑に「今日は何かのお祭りのな」と友人に訊ねた。福岡の「どんたく」や「山笠」といった春夏のお祭りのような賑わいだ。これが日常だと知って改めて東京は大都会だと認識した。

学生生活は全てが新鮮で、中学、高校をミッシェン系の女子校で過ごした私には毎日楽しく、はじけたようにエンジョイした。



夕暮れの谷茶(タンチャ)の浜辺で遊ぶ子どもたち

こちらの生活に慣れた二年後に弟が法学部に入学し、二人で早稲田に通うこととなり、文京区の下宿から久米川の木造アパートに移った。当時、家庭教師を引き受けた生徒が久米川にいたのが縁であった。このことは後に人生の大きな転機になった。主人との出会いがあり、東村山の地で家庭を築く契機になったのである。当時の久米川は緑豊かで、雑木林の小径をよく散策した。弟と銭湯の帰り道に、食料を買いに店に立ち寄って、夫婦と間違えられたことも今は遠い昔の思い出である。

両親は仕送りと共に、よく手紙をくれた。母は日常のことを丁寧に細々と。父は「勉学

に励むように」との短い内容だったが、時折、山で見つけたリンドウや色づき始めた銀杏やもみじの葉が手紙の間から舞い落ちた。背広のポケットの手帳に挿んで持ち帰ったものを送ってくれたのであろう紅いもみじ。新聞記者だった父の愛用の黒い万年筆。肉太で癖のある父の文字。すべてが温かく懐かしい。母は上京する度に見送ってくれた。夕暮れの迫る博多駅の薄暗いプラットホームで夜行列車を見送っていつまでも立っていた母の和服姿が鮮やかに目に浮んでくる。

(S42教育)

忘れじのわが故郷は自然豊かな沖縄

福田 晃 沖縄県豊見城市出身

故郷の沖縄を離れて、早や五十年近くにならんとしている。しかし不思議なもので、これまでの人生で故郷で過ごした期間は短くても、幼少の頃から高校まで過ごした時間の方がむしろ長くさえ感じられる。思えば太平洋戦争で沖縄が危ないということ、早くに父を亡くした末っ子の私は五人の兄弟達と別れ、母と二人で伯母の居る愛知県の知多半島に疎開した。終戦後に小学生半ばで帰島し、感動的な兄弟との再会。母出身地の田舎(恩納村谷茶^{タンチャ})での生活、教職の母の勤務の関係で、今度は母と別れて兄弟達との都会(沖縄市)での生活。特に田舎は沖

縄の自然そのものの生活で、太陽のきらめく陽気な自然、青々と広がる空と海。学校から帰るとほとんど素っ裸で一日中泳ぎ、都合よく降る南国独特のスコールで体を洗った。照りつける砂浜で大きな貝の蓋で、わずかばかりの塩を造っては喜び、引き潮で採れた蛸や小魚を料理しては、仲間で舌鼓をうち、夜は月明かりの下、海蛸の舞う中で泳ぎ回った日々のことは今だに忘れられない。丘では自然の山桃や椎の実を競って採り、鳥籠を自ら作り、メジロや小

我が国の状況を観望するに、至る所ほころびが見られ、長期低落の軌道に乗りかかっているのではない

ながら仕留め、竹鉄砲で木の実を使つて戦争ごっこをしたことなど枚挙にいとまがない。沖縄といえは戦争、軍事基地をイメージしがちだが、このように自然に囲まれた素晴らしい島なのである。紺碧の空、コバルトブルーに広がる海ばかりではなく、年中緑を彩る亜熱帯樹、中でも真紅の色を中心としたデイゴ、ハ

イビスカス、ブーゲンビリア、黄色の鮮やかな色をしたユウナには特に目が引かれる。目映い陽光に映える赤瓦と白の漆喰の屋根に魔除けに鎮座しているシーサー、豚肉文化とまていわれる程の豚肉素材の料理の数々。沖縄は芸能の島とまで言われているように、八月下旬に那覇市で開催されるエイサー祭りは圧巻である。

(S37教育)

堀田 秀夫

『南無阿弥陀仏』

思えば明治維新は隆盛の礎であるはずなのに、明治維新講座はどの大学にも存在しない。残念なことだ。明治欽定憲法下、大東亜戦争という深刻な過ちがあつたにせよ、今一度我が国存立の起点を見直し、犯した誤りは猛省しながら、明治人・大隈老公の気概を思いおこしてはどうか。今流行・蔓延している「デタラメ」は、国家衰運そのものである。だからこの臨終、『南無阿弥陀仏』なのである。

(S45文研)



萩山町二丁目

二丁目の巻

市川 彰彦

ポストマンを引き受けてもう一年に近くなりま
す。特に苦勞はありません

せんし、結構楽しい。当初は会員宅にいち早く会報をお届けすべく、走るように回りました。時間として一時間もかからず四〇分程の行程ですが、時間短縮の興味がありません。楽しみといえませんが、なな楽しみもあります。よその家の表札を覗き見をして珍しい、変わって

います。例えばこんな例があります。「百名、頭川、福鎌、鴨脚さん」など。アツ間かないでください。次の楽しみはー？ 今やつている悪戯はこんなことです。ポケットに忍ばせた花の種を取り出し、狙いを

★今回もまた編集委員の岡田さん、高鷲さん、中村（真弓）さんのご尽力および会員の皆様のご協力で、無事「会報」ができました。
★この「会報」は残部がありませんので、お知り合いの方で稲門会に未加入の方がおられたら、加入申込書とともに送り致しますので、事務局までご連絡ください。
★本年度の新人会員の皆様（敬称略）

五十嵐勝雄	S50	法学
窪田 淳治	S40	政経
滝来 洋二	S41	法学
滝来 京子	S41	教育
尾上 友男	H9	商学
奈切 秀雄	S43	法学
加藤 正俊	S49	商学

★お誕生会にご参加ください。毎月、役員会終了後の夕方、当月生まれの方々をお招きして、お誕生会を開催しています。一人でも多くの方と一緒に祝いしたいと思いますので、是非ご参加ください。会員相互の懇親会も兼ねておきます。きつと新しい出会いがあると

声に恋して

滝来 京子

ラジオから流れる「笛吹き童子」の虜になった幼い頃、声優になりたいと思った。

大学の就職活動期、某放送局の面接官が差し出したのは中原中也の詩「月夜の浜辺」。暗誦するほど大好きな詩だったので、得意満面

表会へ。物語の世界に引き込まれ、心情や情景だけでなく、匂い・風までも感じられた。ベテラン揃いのグループに入れてもらった。非常に奥の深い世界だが、言葉に対する感性を養い磨き、人の魂を揺さぶるような語りをしたい。(S41教育)

根っからの多摩っ子

尾島 敏雄

小金井市(当時は小金井町)で生まれ、居住すること三三年、母校早稲田大学へは当地より通学。その後、東村山市美住町にてよい物件に恵まれ、住まうこと二八年になります。

私は八王子市だったのですが二〇〇〇年に多摩都市モノレール全線開通してからは立川市が顕著にその頭角を現して、母都市としての求心力が高まってきたようです。駅南口の再開発も進展しているようですので、どのように変貌していくのか楽しみです。

我が東村山市も二駅にて駅前再開発が進行しております。多摩人として日常活動をするに多摩地域がより便利になつていくのは喜ばしいことです。それにしても多摩地域は生活するに最高……(S49商)

素敵な場所、美味しい

コーヒーをどうぞ

成田 豊太

多摩地域は今や二八市合計で、四百万超の人口を抱えるまでに発展しています。同地域といえはその中心市



私の手元に一葉の新聞記事があります。平成十四年四月二十六日読売新聞朝刊です。題して「ボランティア運営の喫茶室が東村山市の施設にオープン」とあります。これこそが東村山稲門会会員の皆様にご紹介申し上げたい美味しい「コーヒーのふれあい喫茶一号店」(ふれあい二号店)「いきいき」です。私達福祉に関わりのある東村山市在住の有志が一〇〇パーセント善意と熱意で集い、市長に「障害者が働ける喫茶室を公共の場所に作らせていただきます」とお願いをしたのが開店より遡る四年前の平成十年十二月でした。その後紆余曲折を経て、一号店のオープンに漕ぎ着けること

SHORT

母校の創立百二十五周年は「第二の建学」年と位置づけ、校友参加型の多彩なイベントを企画しています。母校は国宝二件、重文六件、重美八件の文化財を擁しており、百二十五記念室などを新設しました。当号は、「第二の建学」概要を紹介し、表紙は正福寺に次ぐ当市の誇る文化財「下宅部遺跡」で飾りました。異色画家の「色氏」に画家活動の本質を伺い、遠い昔に故郷を離れ出で、当市を終の住処にされた四人に登場願いました。改めて稲門仲間

編集後記

成度の高い教育を享受し、多能な人材集団であることを確認しました。(岡田)

事務局

東村山市恩多町五二四二七
電話 042(3994)69551
小亀 輝雄 気付